

筆山

第75号／2024年7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人／中平 公美子(59回)

発行人／関東支部幹事長 町田憲昭(67回)

関東支部ホームページ：

<http://www.tosako-kanto.org/>



同窓会運営を経験して

傍士和正(74回)

2024年6月一日、日本プレスセンタービル10Fホールにて、関東支部総会・懇親会が開催されました。今年は、末尾4の回生が担当の回生となり、開催までの準備、当日の運営を担当させていただきました。まずは、これまで各回生のみなさんが、コロナ禍も乗り越え、繋いできた同窓会を、次につなげることができます。4の回を手厚くフォローしてくださいました。また、世話役の西森さんとさん(57回)、小松建造さん(56回)、幹事長の町田憲昭さん(67回)、関東支部のみなさん、3の回のみなさん、本当にありがとうございました。

普段、会社では、社内横断的な課題に対し、様々な部署のメンバーとともに、有期のプロジェクトが組まれることもありますが、この同窓会の準備は、部署が異なるどころではなく、「末尾が4」という共通項だけを頼りに集まつた、年代も、状況も大きく異なるメンバーとともに、仕事や家庭などそれぞれの抱える時間的な制約も乗り越え、よく議論し、よく飲み、末尾4の各回生にてタスクをこなし、6月一日の同窓会成功という一つの目的の達成を目指す、まさに、一大プロジェクトでした。

準備の打合せでは、浜松町の秘密結社のような貸会議室でのリアル会議とオンライン会議（高知や上海、ジャカルタから参加いただいたことも）を併用し、テーマ決めや案内状のデザイン、総会・講演会・懇親会の段取り、台本確認、などなど、多岐に渡り話し合いました。74回にて、懇親会企画について検討する際は、「お酒も入って、昔の話に花の咲いている皆さんを、いかにステージに注目してもらうか」に頭を悩ませました（笑）。初めはテーマも中々決まりらず、正直どうなることかと思いましたが、何とか無事に開催でき、10年に一度の貴重な機会にメンバーとして参画できて良かったです。来年以降も、同窓会が、「白線」のつながりを感じつつ、土佐の皆さんと「邂逅」できる楽しい場として続していくことを心から願っています！

関東支部だより

■総会懇親会開催 6月1日(土)

関東支部同窓会が、プレスセンタービル10階ホールにて、濱田一志校長と4人の先生方等を来賓としてお迎えし開催されました。今年のテーマは【邂逅かいこう】。懐かしい再開と世代を超えた新しい出会いを喜び合いました。講演の英保未来さん(44回・翻訳家・書評家・ペンネーム大森望)には、お仕事で人や作品との出会いについてご講演(講演内容P4~5)いただきました。準備と受付・進行担当の「末尾4の回生」の皆様、大変お疲れさまでした。白線まぶしい制服や部活ユニフォームに体操服と懐かしかつたです。来年も6月第一週土曜日を予定しております。同窓各位におかれでは、ぜひお出かけください。大歓迎いたします。

■活動報告他

町田憲昭(67回)幹事長から支部状況報告が行われました。他支部との交流も、コロナ禍以前にもどつてきました。森木隆裕さん(59回)から、会計と会計監査報告がありました。引き続き支部活動と会費払い込みにご協力をお願いいたします。

■支部長交代について

長年支部長を務められた森郁夫さん(41回)の後任に門田道也さん(52回)が就任されました(門田新支部長の挨拶は下記をご覧ください)。森さんには、顧問として引き続きバツクアップしていただきます。詳細は、関東支部HPをご覧ください。

同窓生の連携と情報交換を進めます 門田道也 52回



皆さん、こんにちは 52回の門田道也です。

今年度より、森前支部長の後を受け、土佐高同窓会の関東支部長に就任いたしました。私は、1959年生まれ、高知市比島の出身です。江陽小学校、土佐中学・土佐高校、京都大学を経まして、1983年に水処理を事業とする栗田工業に入社いたしました。2016年から社長を7年間つとめ、昨年の4月会長になり、現在に至っています。就任のきっかけは私が社長になった時に、41回生の方からお祝いの言葉をいただき、そのご縁で、森前支部長とも懇意にさせていただき、今回、支部長を仰せつかりました。大任ではありますが、一生懸命つとめたいと思います。よろしくお願ひいたします。

支部長として、力を注ぎたいことが、三つあります。

一つ目は、同窓会の持つ多様性を活かすことです。

先輩、後輩を問わず、土佐高の同窓生は、多士済々です。

産、学、官、民、社会のあらゆる分野でキャリアを積まれた方が多くいらっしゃいます。

同窓生の蓄積された知識、経験の厚みは、比類がなく、多様性にあふれています。

同窓会の持つ、この多様性を活かさない手はないと思います。

二つ目は、より多くの、つながる場を提供することです。

同窓会は、多様な人材が繋がり、相互に機能する状態をつくる場だと考えます。

多様な人がいて、目的を持った繋がりがあって、変化や新しい価値が生まれます。

趣味で人とつながりたい、将来の伴侣をつけたい、仕事を充実させたい、

高知の発展に貢献したい、どのような目的でも構いません。

大学に入った時、就職したとき、家庭を持ったとき、リタイアしたときに、

様々な人とめぐり逢い、つながることで、多くの知恵を得て、人生は豊かになります。

同窓生の人生を豊かにする つながりの場を提供することが、同窓会の役割だと考えます。

三つ目は、土佐高が、この先50年、100年続くよう支えたいということです。

いま、土佐高を取り巻く環境の変化はとても激しく、厳しいものがあります。

少子化の進展、高等教育のグローバル化、社会のデジタル化などです。

土佐高が永続していくためには、この環境変化に対応して、変化していく必要があります。

同窓会として支え、力添えできればと思います。



森郁夫前支部長から引継がれました



懇親会では学ラン姿にも

人材の育成には、社会における研鑽が、とても重要です。同窓生、特に若い世代が、様々な人とめぐり逢い、多くの知恵を得て、社会で活躍できるよう、同窓生間の連携と情報交換を進めていきたいと思います。

支部員の皆さまのご支援、ご鞭撻を、何卒よろしくお願い申し上げます。

イベント情報

関東支部では、縦横でつながるイベントを企画しています。
日時詳細はHPまたは公式フェイスブックで

■学生・若手社会人交流会 2024年12月7日(土)

●場所 東大駒場キャンパス
生協食堂2階

ダイニング銀杏(いちょう)

●当日スケジュール

PM2:00～PM6:00



昨年の講演者の

基調講演・交流会(立食パーティー) 浅川純さん

●お申し込み先など詳細は

土佐中・高等学校同窓会関東支部HP

関東支部公式Facebookにてお知らせします

●お問い合わせ先

若手の会幹事 松岡健太

kenta.matsuoka0502@gmail.com

※運営に興味のある方もご連絡ください

昨年の交流会の様子



■ハイクの会 9月7～8日(土・日)

富士山と駿河湾を望む
伊豆山稜線歩きと観光

大人27,000円(小学生半額)

貸し切りバス利用・全食事つき

宿泊 公共の宿 まつざき荘泊

お申し込み先

西本憲良 tochigoro-0505@ezweb.ne.jp

久万正道 mkum009@yahoo.co.jp

中平公美子 kumikochun0411@gmail.com



詳細は同封のパンフレットで

■はちきん会

10月26日(土) 12:00～14:30

●会場 「STELLAR WORKS Restaurant & Bar」
青山一丁目駅0番出口から直結

●講師 岡林佐和さん(74回)

朝日新聞社 記者

●ミニコンサート

オペラ歌手 上久保沙耶さん(89回)



●参加費 女性6,000円 男性8,000円 学生4,000円

お問い合わせ先 佐々木 090-7817-7085

西森 090-3221-9545

宮崎 090-8519-2353

詳細は同封のパンフレットで

■会員登録のお願い
関東支部では、HPからの会員登録をお願いしています。変更があった方も更新をお願いいたします。

左のQRコードからメールのみの登録も出来ます。

関東支部
公式
Facebook
からは
イベントの
お知らせも
しています

QRコード
メール登録



一般社団法人
**高知県UIターン
サポートセンター**



高知県、市町村、関係団体の43団体を社員とする一般社団法人です。無業職業紹介所として、高知県の企業と就職・転職希望者のマッチングをはじめ、UIターン希望者向け各種イベント、及び移住の際のサポートを行っています。

📞 088-855-7748 📩 jinzai@iju-jinzai.kochi.jp

東京窓口

📞 03-6206-1707

[開設時間] 10:00～18:00(平日)

東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル8F

高知で働きたい!を
応援します。

「高知求人ネット」

高知求人ネット



厚生労働大臣許可番号 39-M-300012

ご相談・ご紹介等、よろしくお願ひいたします。

高知県UIターンサポートセンター



一般社団法人
土佐婚俱楽部®
TOSAKON CLUB

婚活のお悩みを心を込めてサポート致します
年に数回、合コン等やってます! 詳細はHPで

代表理事・東京相談室長 織田祐輔(45回生)

顧問 梅原毅(45回生)

顧問弁護士 浦田理有(76回生)

URL <http://tosakonclub.com/>

東京相談室 080-5010-5545

〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-17-21



翻訳や書評と創作指導までと英保さんのご活躍について

ご講演内容をまとめさせていただきました

僕がSF少年になったきっかけ。僕が子供の頃は、鉄腕アトム、スーパージェッタ、ウルトラマン、仮面ライダー、パーマンなど、テレビはSF番組が花盛りでした。SFを浴びて育った世代です。中でも決定的だったのが、一九七〇年の大阪万博。同世代のSFクリエイター、例えばエヴァンゲリオンの庵野秀明監督もやっぱり七〇年の万博に大きな影響を受けています。エキスピランドで最新の科学技術に夢中になつた小学生たちの成れの果てが、今もSFから離れられずにいる。実際その万博では、アホロが持ち帰つた月の石が一番人気でした。万博に合わせて未来学ブームが来て、二〇〇〇年には月に基地ができるだろうと思つていました。まだギリギリ未来を信じられた時代です。七〇年万博以降、日本では高度経済成長が科学技術の発展と一緒にになって、SFブームがバーツと広がつたという感じですね。

僕がSF小説にハマるきっかけになった本は、アレクサンドル・ベリヤーエフの『両棲人間』。ロシアのSFです。エラ呼吸がでかけるように身体改造された少年が海の中で生きて、イルカ人と友達になる話。『ボツコちゃん』がそのあとですね。星新一さんが初めて新潮文庫で出した自選作品集で、今もよく読まれています。自分が好きな小説はどうやらSFというジャンルに属するらしいと気づいてからはなんだんSFを読む量が増えて、中学からはSFマニア一直線という感じでした。

僕がどんな本を翻訳してきたか
翻訳という仕事は、なんでも好きなものを訳せるわけではなく、基本的に出版社からの依頼で成り立っています。翻訳の仕事を始めたばかりの頃は、言われるがままにいろんな仕事を引き受け、「3月の金曜日」の小説版、「インディジョーンズ最後の聖戦」の小説版など、映画絡みの仕事をたくさんやつています。パリントン・J・ベイリーの「時間衝突」は、学生の頃から大好きだった作家の作品の翻訳

自分から出版社に提案してやらせてもらつた最初の企画です。これは一九九〇年の星雲賞を受賞して、よく売れました。過去から未来に向かう時間と、未来から過去に向かう時間とがもし正面衝突したら……というめちゃくちゃな話で、バカバカしいけれど面白い。リストファー・ノーランの『TENET』は、この『時間衝突』の影響を受けてるんじゃないかなと密かに疑っています。

集で人気が高い本が、テツド・チャンの『息吹』。映画「メッセージー」ジの原作の「あなたの人生の物語」を書いた人で、『息吹』はそのチャンの二冊しかない短編集の一冊です。現代SF短編の最高峰と言つてもいい作品群だと思いまして、SFに興味があるので、ぜひ。

「SF創作講座」という小説スクールで主任講師を務めています。これはゲンロンの東浩紀さんとの出会いから始まった講座ですね。年間受講料が三十万円近いのに、四十人の定員が募集開始から一時間で埋まる人気講座になっています。

いろんな邂逅(かいこう)がありました。邂逅と言えば、最近スタートした『あの本、読みました?』というBS5テレ東の情報番組に呼ばれて、メインMCの鈴木保奈美さんに『このミス』大賞受賞作の解説をしたり、元日向坂46の宮田愛萌さんのとなりで新刊を紹介したりする仕事もありました。

とはいっても、この五年間で一番大きな邂逅は、やはり劉慈欣さんですね。『三体』をきっかけに、二〇一九年から突然中国SF翻訳者の端くれになって、共訳者という形で劉慈欣さんのSFの翻訳を十数冊出しています。この歳になつてもまだ新しい分野の仕事が始める、そのためには新しい出会いが重要なんだなとつくづく思いました。ご清聴ありがとうございました。

本を翻訳してきたか
の仕事は、なんでも好きなものを
訳せるわけではなく、基本的に
出版社からの依頼で成り立って
います。翻訳の仕事を始めたばかり
の頃は、言われるがままにいろ
んな仕事を引き受け、「13日の
金曜日」の小説版、「インディジョー」
ンズ最後の聖戦の小説版など、
映画絡みの仕事をたくさんや
っています。ハリントン・J・ベイリー
の『時間衝突』は、学生の頃から
大好きだった作家の作品の翻訳

僕がSF小説にはまるきゃかけになった本はアレクサンドル・ベリヤーエフの『両棲人間』。ロシアのSFです。エラ呼吸ができるように身体改造された少年が海の中で生きて、イルカと一緒に友達になる話。『ボッコちゃん』がそのあとですね。星新一さんが初めて新潮文庫で出した自選作品集で、今もよく読まれています。自分が好きな小説はどうやらSFというジャンルに属するらしいと気づいてからはだんだんSFを読む量が増えて、中学からはSFマニア一直線という感じでした。

の科学技術に夢中になつた小学生たちの成れの果てが、今もSFから離れられずにいる。実際その万博では、アーポロが持ち帰った月の石が一番人気でした。万博に合わせて未来学ブームが来て、二〇〇〇年には月に基地ができるでいるだろうと思つていました。まだギリギリ未来を信じられた時代です。七〇年万博以降、日本では高度経済成長が科学技術の発展と一緒にになって、SFブームがバーッと広がったという感じですね。

自分から出版社に提案してやらせてもらつた最初の企画です。これは一九九〇年の星雲賞を受賞して、よく売れました。過去から未来に向かう時間と、未来から過去に向かう時間とがもし正面衝突したら……というめちゃくちゃな話で、バカバカしいけれど面白い。リストファー・ノーランの『TENET』は、この『時間衝突』の影響を受けてるんじゃないかなと密かに疑っています。

カート・ヴォネガットは現代アメリカ文学を代表する作家。『タイタンの妖女』という小説が、爆笑問題の事務所タイタンの名前のもとになつたことで有名ですね。僕は卒論をヴォネガットで書いたんですけど、自分で訳す日が来るとは夢にも思わなかつた。ところが没後に大量に未発表短編が発掘され、その翻訳を担当することができました。『はい、チーズ』と『人みな眠りて』の二冊の短編集に収められていました。これらの作品は、その後、全四巻の『カート・ヴォネガット全短篇』にまとまりました。

あと一冊、僕が翻訳した英語圏のSF短編

コニー・ウイリスは、アメリカSFの女王の異名をとる人気作家で、SFを知らない人が読んでも非常に面白い。とりわけロマンティック・コメディが絶品ですね。『ドゥームズデイ・ブック』に始まるタイムトラベラーのシリーズは近くにお薦めです。ぜひコニー・ウイリスという名前を覚えていただけないと嬉しいですね。ただ、どれも長いので、そんな分厚いのは無理という人は、短編集の『空襲警報』と『混沌(カオス)ホテル』から読んでいただければ、カート・ヴォネガットは現代アメリカ文学を

ブリッツ・K・ティックは映画の『トータル・リコール』や『ブレードランナー』で有名な作家ですが、僕が翻訳を始めた頃はまだ未訳のSF長編が何冊も残っていた。駄作と言われている作品でも、読んでみると面白い。それで『ザップ・ガン』『タイタンのゲーム』『ブレイヤー』『フロリックス8から来た友人』などを翻訳して創元SF文庫から出すことができました。その後、ハヤカワ文庫SFでも再刊されましたし、ディック短篇傑作選全6冊で出すことも

の大ヒットを記録。日本でも三部作累計で百万部を超える大ベストセラーになっています。小説は読んでないけど、今年3月から配信されているNetflixのドラマで見たという人もいるかもしれません。舞台を中国からイギリスに移し、かつてオックスフォード大学の同じ素粒子物理のゼミに通った5人の仲間が奇怪な現象に遭遇するところから始まる、大胆なアレンジです。原作とは全然違いますが、三部作の中身をいたん全部バラバラにした上で緻密に再構成した、非常によくできたドラマだと思います。原作に忠実な中国版のドラマが全30話あるのに対し、Netflix版は8話しかないでの、早送りのようにどんどん話が進みます。ドラマを見て興味を持った人は、この機会にぜひ原作小説を手に取ってみてください。中国発のアニメ版やマンガ版もあり、ハマればいろんな『三体』を楽しんでいただけます。

アンソロジーと新人の育成

新人の育成という面では、宝島社の『このミステリーがすごい!』大賞で、二〇〇二年の第一次からずっと選考委員を務め、東山彰良、海堂尊、中山七里、柚月裕子、辻堂ゆめ、新川帆立など、百人以上の才能を送り出してきました。二〇一五年からは、「ゲンロン 大森

詠されてSF界の最高賞ヒューリー賞長編部門を受賞しました。地球が「三体」と呼ばれる異星文明に侵略される古典的な本格SFです。『黒暗森林』『死神永生』と続く三部作になり、これは全世界で二千九百万部の大ヒットを記録。日本でも三部作累計で百五部となりました。

望 SF創作講座」という小説スクールで主任講師を務めています。これはゲンロンの東浩紀さんとの出会いから始まった講座ですね。年間受講料が三十万円近いのに、四十人の定員が募集開始から一時間で埋まる人気講座になっています。





写真集





4回の回の皆様 準備と受付から進行

お疲れさまでした

準備会は回生末尾5の回の方に
引き継がれました

皆さん来年もまたお会いしましょう



留学体験記

カナダ マギル大学

藤田 早斐（95回）



①留学のきっかけ

私は、カナダにあるマギル大学に、大学4年次の2023年9月から約8ヶ月の交換留学に行つてきました。私にとって、留学は卒業や進路のために絶対に必要なものではありませんでした。そのため、憧れはあるものの、半年以上の長い時間を強い目的意識も持たずに留学に費やすことはあまり現実的ではないのではないかと思っていました。そんな私の背中を押してくれたのは、一足早く交換留学をしていた親友の存在でした。「何をしたいかはあまり決まっていないけれど、色々あると思うから」と、私と同じように悩みながらもボジティブに出国し、身の回りのあらゆることに目を向けて飛び込み、貪欲に多くを学び取って見聞を広げるその姿を見て、「きっと私も、行ってみて頑張れば何か大切なものを得られるはずだ」と直感しました。もちろん、留学生生活の詳しい様子を教えてもらう中で具体的なイメージができるようになったことも大きな助けでした。

②学習・学校でのこと

交換留学とは、協定校同士が学生を交換する制度です。語学留学とは趣旨が異なり、学生は現地の大学教育を受けることになるため、私は自分の専攻である文化人類学を中心とした授業を英語で受けていました。

大学の授業スタイルは、国や地域によってかなり異なります。私の留学経験で特に衝撃的だったことは、一学期の履修科目数が4ないし5と少なく、一科目には週3時間（大抵一時間半×2コマ）の授業時間があります。内容が非常に濃かつたことです。毎回の授業のために何十ページもの文献を読んでおく必要があり、スピードと理解深度のバランスをどう取るか試行錯誤していました。

③学校や町の魅力

マギル大学があるモントリオールという都市は、カナダの中で最もフランスの影響が強いケベック州にあります。大学内の公用語は英語であるものの、街ではケベック訛りのフランス語が飛び交います。また、場所によってはヨーロッパのような街並みも見られます。オフの時に様々な地区を歩くことがとても楽しかったです。

モントリオールの夏は最高だとよく言わられます。でも、雪国ならではの楽しみもあり、雪が舞う中での屋外フェスや、無料の屋外スケートリンクに友人たちと一緒に楽しめたことは良い思い出です。



雪の中の屋外フェス

④日常生活・文化の違い・観光

私は交換留学生15人が住むシェアハウスで生活をしていました。共用部分での挨拶やおしゃべりをはじめ、日頃からチャットで連絡を取り合い、食堂で一緒に夕食を取ったり、図書館で勉強したり、休暇中には一週間カナダ北東部へドライブ旅行に行ったりと、様々な関わりがありました。密な関係の中で絆が深まった一方で、設備の使い方や共同での意思決定において、齟齬が発生し、もどかしい思いもしました。しかし、日本にいるときにはおざなりにしてしまいがちだった、言葉で思いを伝え合う態度を徹底することで、よりよい共同生活に近づいたのを実感しました。

趣味で始めたラテンダンスでは、非常にさまざまな発見がありました。多様な人々の集まる場所であるから尚なのか、言葉を使わないコミュニケーションの持つ力の強さや豊かさに驚かされました。こうしたダンスの形式に組み込まれた強固なジェンダー規範の在り方、文化に占めるダンスや音楽の重要性もまた、初めて触れるもので興味深かったです。

⑤結びとこれから

私の留学生活は、予想外の出来事で満ちていて、それらを乗り越えていく中で自分で考えもしなかつたような成長を遂げました。初めて外国に住む経験をしたことで、世界に対する見方が大きく変わり、戸惑い、何度も立ち止まりましたが、そのような時間を得られたこともまた、慌ただしく過ぎる大学の4年間を一時休止した大きな意義でした。私は将来社会科教育に携わりたいと考えていて、今回の経験はそれに大きく生きていこうと確信しています。

最後に、留学に大きなお力添えをくださった38池田勲夫基金に心より感謝申し上げます。冒頭にも述べたように、私の留学は様々な後押しによって実現しましたが、この体験記が、留学を考えている他の方のお役に少しでも立てることがあれば幸いです。

ハウスメイトたちとのドライブ旅行



海外留学奨学金基金を利用しよう

返済不要の給付型奨学金です

関東在住の土佐高卒業生の若者に、是非海外の文化や最新の技術等を体験して欲しいと、

38回生の有志が海外留学奨学金【38池田勲夫基金】を創設され、

返済不要の給付型奨学金として、藤田さんを始めとする留学生を応援しています。

夢や目標のある方、関する土佐の名に叶おうとするものは是非応募してみませんか。

申請の受付については、関東支部HPでお知らせしています。

土佐校同窓会関東支部HP <https://www.tosako-kanto.org/index.html>



大学にある、お気に入りの図書館





となりのトロのサツキとメイの家を彷彿させる敷地には、ビオトープ、焚き火コーナー、自然の地形を活かした水遊び場や滑り台が点在しています。例えば水遊び場は、空っぽの池に蛇口をひねるときれいな水が噴き出すというシンプルなデザインですが、蛇口から出る水の流れを楽しむもよし、水鉄砲をするもよし、貯まった水でカバさながら浸かるもよしと子供たちの体力と想像を存分にひきだします。じゃぶじゃぶ池という名称のとおり幼児も小学生もそれぞれの楽しみ方で水遊びを満喫しています。

うらっこ広場の最大の魅力は、職員が常駐している点です。彼らはただ監視するだけでなく、子ども達の中に入って一緒に遊んでくれます。例えば、鬼ごっこをするときも、職員も鬼になってくれるため、子供たちは全力で逃げ回り、運動不足を解消できます。親がしてあげたかった!という本気の遊びを、職員が親に代わって子ども達と遊んでくれるのはとてもありがとうございます。

人気の焚き火コーナーは、レンガで壁を作った簡易的な場所で、火おこしから火消の後始末まで行います。持ち寄りのマシュマロやソーセージを焼くのは、擬似キャンプのようでワクワクします。



夏には竹で作った流しそうめん等、季節ごとの自然観察イベントも定期的に開催されています。

「うらっこ広場」は、子供たちが体を動かしながら自然と触れ合い、安全に遊べる環境を提供しています。子育て世代や祖父母世代にとっても、自然の中で子供たちの笑顔と成長を見守ることができるのでリフレッシュすることができます。皆さんもお気に入りの公園の情報をぜひ教えてくださいね。

浦安市こども広場 うらっこ広場 <https://kodomonohiroba.com/>



大自然と一緒に遊べる!

魅力満載の親子で楽しめる公園 施設名: うらっこ広場(浦安市)

子ども達が思いっきり遊べ、親や祖父母が安心して見守ることができる「うらっこ広場」をご紹介します。この公園は、幼児や小学生の子供たちが泥だらけになって遊べる最高の場所です。特に魅力的なのは、施設の職員が子供たちと一緒に鬼ごっこやベーゴマ、縄跳びをしてくれるという点です。



ひとり暮らしの引越しは3回目。

実験室を片付け終わり、しばしばお世話になった寝床で最後の就寝。
研究室のソファを夜明け前に整え上信越道へ出発。次は東京。

チツカチツカチツカチツカ
シユルシユルシユル

バタン

トツトツトツ

ボンッ ウィー ガサガサガサ 「よつこいしょ」 フンッ フンッ ドスン。ドスン。ドスン。 ブーン。

「えー。今小さい人がうちに粗大ゴミ捨てて行ったー」というのが今の大家さんが見た私の第一印象だったらしい。そこから私の名前は、チビコとなつた。



まずは同じアパートの住人にあいさつまわり。ピンポン…開いてビックリ。こっちはおじいさん、あつちはおばあさん。学生が多い街でのひとり暮らししか知らないつたので、同世代くらいの人を勝手に想像していた。まさかが年配の方が出てくるとは…。自分の常識の狭さに面白くなつた。あとから知つたが、おじいさんとおばあさんは、大家さん夫婦のお父さん、お母さんだつた。同じ建物の真ん中の階に賃貸をはさむ、新しい二世帯住宅の在り方を知つた。

初めての大家さんは、ナナメ前に住む明るくて優しいおばあちゃん。昔下宿を営んでいた家屋には暖かい掘りごたつ。おむすびもらつたり、雪かき教わつたり。

次の大家さんは自転車でちよつと走つたところに住むあんこ屋のご夫婦。

年末は決まってサイクリングの格好であんこのお届けサプライズ。

毎年甘い年明けでスタート。

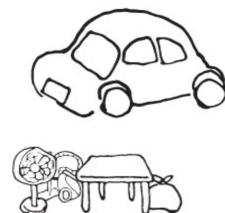
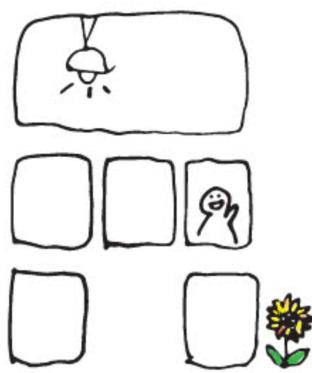
今年の大家さんは上の階に住むご家族。箱根に行つたり、成田に行つたり、山梨に甘いとうもろこしを食べに行つたり。

家族旅行にしつと参加。現在、越してから3年目。今は毎週日曜日がごはん当番の日。

そして毎朝、高校生の娘ちゃんから月額二百円でレンタル中のヘアアイロンで髪をセットし出勤中。

もし、今、将来の夢は?と聞かれたら、「誰かの大家さん」と答える。

大家さんって、パワフルだ。ー



ここまで大家さんとずぶずぶな癒着を持つたきっかけは3つ。ひとつ、まだ転居する前、先んじて鍵を受け取りに東京へ来た時、挨拶に行くも留守だつたので手紙を入れておいた。そしたら後日、返事が来た。ふたつ、転居当日に挨拶に行つたが、どうやら借主が挨拶に来るのは十数年ぶりだつたよう。みつつ、「東京と地方の違いを見てみたいから自治会に入りたい」と言つたら、会費回収を担当していたのが偶然大家さんだつた。50代の大家さんが最年少だつたようで、自治会がざわついたみたい。

今、自分は仕事で困つてゐる。お客さんにとって我々の商品・サービスを選ばない理由・使い続ける理由・『唯一無二のポジション』をどう作るのか?どう伝えるのか?「なんか今までの借主とは違う」というポジションを獲得したように、仕事においてもお客さんとそういう関係を築けるようになりたい。

母校だより 校長 濱田一志

6月の関東支部同窓会では大変お世話になりました。コロナ前の日程に戻り、会場がたくさんの同窓生の活気に溢れていたことは、誠に喜ばしい限りでした。お酒が入り楽しく語らいつつも、土佐高のさらなる発展を願うみなさまのお気持ちがひしひしと伝わってきて、身の引き締まる思いでした。総会のスピーチでも触れさせていただきましたが、まずは校長としてどんな学校を目指しているのか、どんな課題があるのかについて述べた後、今年度の予定も含めた学事報告等をさせていただきます。

【土佐が目指すもの】 土佐の建学の精神は「人材育成」です。そのための教育方針として学問、礼節、スポーツがあり、それらを自発的に修養するということを100年以上貫いてきました。この精神と教育方針は今も変わりません。右文尚武すなわち学問とスポーツの両立という土佐の誇りを貫き、報恩感謝すなわち人間教育にも一層力を入れて生徒の自発的な成長を促していくまます。

【土佐校の姿】 6月1日現在の生徒数は新中1が249名、NP生2が54名加わり中高併せて1638名です。その中身を表に示します。1学年のクラス編成

	男子	女子	計
中学	440	319	759
高校	511	368	879
計	951	687	1,638

は中学5クラス、高校6クラスあり、一クラスおよそ50人のうち男子が30人、女子が20人という編成です。私(58回生)が高校生の時は1クラス60人で男子45人、女子15人でしたので、女子の比率が高まっていることがわかります。

※NP; 高校からの編入生をNP、土佐中学からの進学生をOPと呼んでいます。昭和世代の方々にはなじみがないと思います。NPはNew Powerの略です。するとOPはOld?と思うかもしれませんが、Original Powerの略です。

【課題】 一番大きな課題は少子化への対応です。県内では9校ある私学のうち清和女子が募集停止を発表し、学校関係者のみならず行政の関連部署にも衝撃が走りました。本校は今すぐアクションを起こさなければならないという状況にはないものの、将来に備えてあらゆるケースをシミュレーションしていくかなければなりません。このことに関しては、同窓会のみなさまも強い問題意識をお持ちのようで、宴席の間にも様々なご意見を頂戴しました。両極端の意見として「建学当初の少数精銳にもどす」「スポーツクラスを作つてマンモス化する」などがありました。ここでは々非々は述べませんが、土佐がみなさまにとってもまたこれから卒業していく生徒たちにとっても誇り高き母校であり続けられるためにはどうあるべきかという視点で知恵を出し合っていく必要があると思います。

次に直近の課題3つに触れたいと思います。1つ目は挨拶です。社会生活の基本は挨拶ですが、コロナの3年間でそれが薄れてしましました。小中学校のときから声を出しNGルールで育ってきた今の中高生はいたしかたのことかもしれません。この挨拶の復興が直近の課題です。おはようございますから始めよう、声を出せないとときは会釈をしようということを折に触れて呼びかけています。2つ目はICT化への対応です。チャットGPT、生成AIなど人工知能が急速に発達しています。また、教科書もデジタル化される方向です。用語が難しく感じるかもしれませんのが、要は教育現場にコンピュータが深く入り込んでくるということです。これには機器を整備し、試行錯誤しながら土佐らしさと融合させていきたいと考えています。3つ目は学校設備の更新です。新校舎完成から15年が経ち、様々な設備が更新時期になってきました。また新グラウンドの弓道場とトイレは設備の老朽化が激しく、立替えが必要なレベルです。健全な資金計画の下でこれらの更新を実行していきます。

【2024年度大学進学】 難関大学の一例をあげますと東大7名、京大10名、阪大8名、早稲田24名、慶應18名、また、医学部医学科には52名という数字を残してくれました。これらの数字以上

にそれぞれの生徒がそれぞれの目標に向かって最後まで粘ってくれたことを称えたいと思います。特筆すべきは現役生の躍進です。99回生293名のうち半数以上の160名が現役で国公立大学に合格しました。この数は過去最高です。

【行事】 全校遠足と中学クラスマッチが終了し、運動会実行委員会が立ち上がったタイミングで執筆をしております。ホームゲー

ムの出し物、やぐらのテーマなどが各クラスで決まり始めました。高2高3がこの準備にかける情熱はすさまじい限りで、本番よりもこの準備期間の思い出がより強く残っているという方も多いと思います。今後の予定も含めて行事一覧をご覧ください。そして、帰高のタイミングが合うようでしたら運動会や向陽祭にお遊びいただければ幸いです。

【部活動】 校長に就任したときにすべての部を観に行くと決めていました。生徒に文武両道を推奨しているからには、その応援をしたいと思ったからです。中高生が躍動している姿は本当に見ていて気持ちが良いものです。

本年度の戦績ですが、高校運動部は4部、文化部は9部が全国大会出場を決めています。

〈バドミントン男子、ハンドボール女子、自転車競技、陸上競技、棋道、放送、合唱、オーケストラ、吹奏楽、かるた、美術、写真、まんが〉

中学運動部はこれからの県体と四国大会しだいですが、文化部は棋道部が全国大会出場を決めています。また、水球、新体操など学校にない競技や文化活動を地域クラブに所属して活躍している生徒もいます。

【国際交流】 夏休み期間中に3種類の国際交流プログラムが行われます。希望者のみ参加ですが、どれも人気があり選考会が行われて、イギリス20名、ニュージーランド20

名、ガーナよさこい10名に絞られました。費用の一部を学校が負担するのですが、その原資はみなさまからの募金で貯われております。また、ガーナよさこいでは、プログラムの調整やスポンサー企業との交渉など同窓会の方々にお世話になっております。本活動は生徒の視野を広くし、教養を深めることにつながっています。ありがとうございます。これらとは別に、1年間の長期留学生が2名います。それぞれ、ドイツとニュージーランドでホームステイをし、現地の高校で授業を受けています。

期間	場所	内容
8/5~8/16	イギリス	語学学校の寄宿舎に泊まり研修プログラムをこなす
8/17~8/27	ニュージーランド	ホームステイしながら現地の高校に通う
8/20~8/26	東京	ガーナの高校生とよさこいを通じて交流

【最後に】 以上学事報告では華々しい活躍の話をさせていただきました。しかし、土佐高の価値はこれらの活躍には直接現れていない何でもない日常にあると思っています。勉強が得意な子・苦手な子、スポーツが得意な子・苦手な子、行事で前面に出る子・裏方に徹する子、いろんな生徒たちが同じクラスにいて刺激し合う。これが土佐の日常であり、価値であると思っています。今ではこのような私学は少数派になり、クラス分けで文武を分業化して成果を出していくという形が一般的になりました。私はこの土佐の価値こそが、本当の人材育成につながると信じています。同窓会関東支部の益々のご発展を祈念いたします。

4/9	入学式
4/22	全校遠足
5/18、19、他	高校県体
5/18、19	中学クラスマッチ
7/17、18	高校クラスマッチ
8/17	ホームカミング・ディ
9/22	運動会
10/29	全校遠足
11/18~22行	高1修学旅行
11/21	中学合唱コンクール
1/31	高校卒業式
2/8、9	向陽祭
2/18~21	中2スキー研修
3/18	中学卒業式



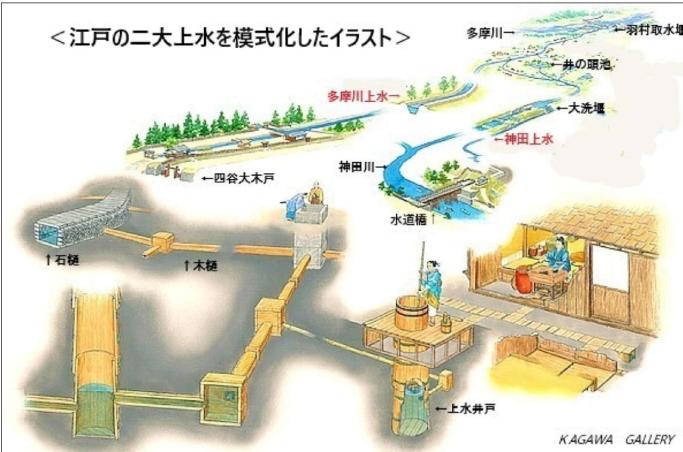
男子バドミントン



女子ハンドボール



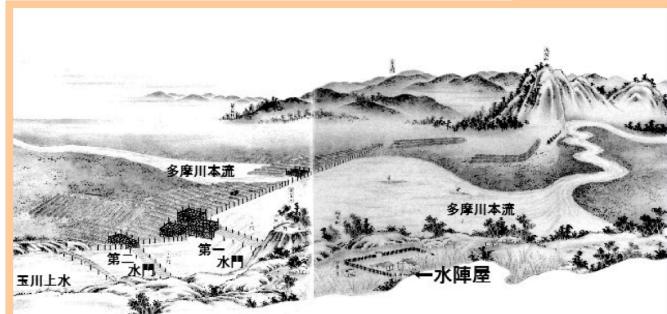
漫
画
同
好
会
予
選
通
過
作
品
脱
出



(右) 歌川廣重「富士三十六景 東都御茶の水(安政六年-1859)」元の神田川をまたぎ神田上水を渡す懸橋(かけひ)を描いている。水道専用橋で、水道橋の地名の由来である。



(上) 関口大洗堰。目白関口に堰を設け、神田川の水位を上げて取水し石樋や木樋で地下を通し神田上水として江戸に飲料水を供給した。



(上) 羽村取水堰（部分）<新編武藏風土記稿 文化文政期（1804～1830）> 左手前が玉川上水。向うは多摩川本流。上水の第一水門と第二水門は現在と同じ位置にあるそうだ。



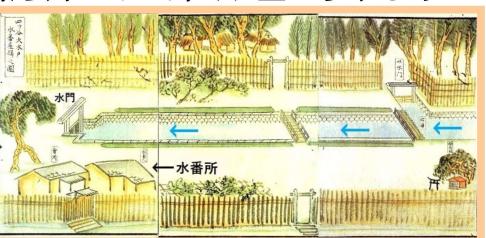
(上) 現代の羽村取水口。水門の向こうが多摩川本流、手前が玉川上水。筆者撮影。第一水門から水を取り入れ水量も多い。

大切な江戸飲料水供給計画であるこの玉川上水案を放棄するのはまずいと考え、自分の家に安松金石衛門吉実という水利に達した者があるので、水利に達した者があるのでもう一つかの水路を設計し、最終的に羽村で多摩川から取水し、四谷大木戸に通す玉川上水の水路を決定した。

承応二年（一六五三）四月四日開削工事開始。羽村から四谷まで43キロメートルの標高差が約百メートル程しかなく、水平に百メートル行って20センチメートル下げるといふ緩勾配の難工事であった。同年十一月十五日開削工事が完了し、翌年六月二十日に羽村・四谷間全線通水した。露天掘りで、四谷水番所からは石樋や木樋など地下水道となつて、江戸城・武家地および江戸の下町に飲料水を供給した。

全国無二の安松金石衛門は、首尾よく工事を遂行の偉業一につき、大規模の全国三大功績の成績離・長距離・水を完成させたが、庄右衛門・清右衛門兄弟をはじめとする民生上の水を玉川上水を完成させた。これが庄右衛門の功業である。

江戸っ子の自慢
江戸っ子はこの水道が恐ろしく自慢で、上水を常に飲んでいるということが、戸の自慢となつた。戸の自慢とならないことは、普通の井戸水以外の水を雜用に使つて、誰も勿体無いことをするといふことだ。戸から汲んでもし飲料水以外の水を雜用に使うことは無いけれど、それが飲料水を雜用に使うことだ。これが不道徳な人間だと指弾される。子供でも、やがては大人にならぬまでは、普通の井戸水だけに使つて、戸の自慢となつた。



(上) 四谷大木戸の玉川上水の終点。左の水門より石樋で地下に入り江戸に給水された。



(上) 上図と同じ場所から見た玉川上水水番所跡。四谷4丁目交差点(四谷大木戸跡)。

出版レーダー



池添康正 (33回生)

『ことばが好き 子たち孫たちもっと好き』

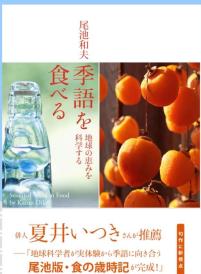
三省堂書店/創英社 2024.2



田島征三 (34回生)

『森の歌がきこえる』

偕成社 2024.7



尾池和夫 (34回生)

『季語を食べる: 地球の恵みを科学する』

淡交社 2024.1



塩田潮 (40回生)

『バブルのリアル 経済大国日本の幻』

サイバースマイル 2024.4



矢野龍彦 (46回生)

『すごい!ナンバ術: 疲れず、無理なく、素早い動きに変わる!』

ビーエービージャパン 2024.1



津野久志 (48回生)

『津野山鏡上—津野氏の歴史物語』

リープル出版 2023.12



宮岡等 (49回生)

『賛否両論の病氣 こことからだのはざまで』

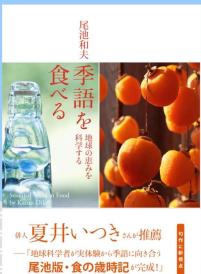
中外医学社 2024.4



須藤靖 (52回生)

『宇宙する頭脳 物理学者は世界をどう眺めているのか?』

朝日新聞出版 2024.3



門脇護 (53回生) / 門田隆将

『消えゆくメディアの「歴史と犯罪』

ビジネス社 2023.12



森岡浩 (55回生)

『47都道府県・文学の偉人百科』

丸善出版 2024.5



安岡寛道 (63回生)

『ビジネスフレームワークの教科書 アイデア創出・市場分析・企画提案・改善の手法 55』

SBクリエイティブ 2024.2